

都心に比べて200円は安いです！

本当にお得です」と武藤さん。

竹の塚散歩の度に、一店ずつ名店を制覇していくのも楽しいかも。

友

の

まち

美味しい！安い！竹の塚ラーメン



メディアでも特集を組まれるくらいの「めん処」竹の塚。個性あふれるラーメン店がこのエリアに集結している。ラーメンの系統が一つでなく、魚介だし、塩、横浜家系、豚骨、合わせだし、味噌、太麺、細麺、つけ麺、なんでもござれ。

厳選した素材と無添加魚介だし、手作り麺で有名な「武藤製麺所」のオーナー武藤真一さんによる「竹の塚は、家族連れも多く、都内にしては物件も安いので、ラーメン屋が集まっているのでは」という。

「この激戦区で生き残っているラーメン店は、どれも自信を持っておすすめできます。しかも、同じ内容のラーメンが

⑤

武藤製麺所／竹の塚 6-7-14
03-3850-4551
国産小麦にこだわった太さ5種類の自家製麺。塩と醤油の魚介と鶏の旨みスープと、濃厚な鶏白湯スープの2種類がある。添加物や保存料を使っていないので素材への安心感も抜群

上醤油らーめん

足立の中でもさらに一番！

フセンターなども、都心と比較するとリーズナブルなお値段と設備の良さで区外から訪れる人も多い。

足立区は、23区の中で最も区立公園の面積が大きい。整備された美しい公園は、子どもからお年寄りまでみんなの憩いの場所だ。さらにこの地域に多いのは、数々のユニークな公園。カンガルーや蝶の温室でおなじみの生物園を有する元渕江公園や、広大な敷地を活かした都立舍人公園のほか、個性的な児童遊園も多く、ファミリーで丸一日遊んで楽しめる。見沼代親水公園をはじめとする緑道も多く、北西部をぐるっと周遊できる。しかも、遺跡や神社、寺が点在し、それらを巡りながらの散策もおすすめだ。また、広い土地を活かしたスポーツ施設も充実。バッティングセンターやゴル

元渕江公園(生物園)
保木間2-17-1

園内には釣りができる池もある。
生物園とあわせて楽しもう

都立舍人公園
舍人公園1-1

区内一の広さを誇る公園。野球場
やBBQ広場もある

江北北部緑道公園
谷在家2-13～皿沼3-20
春と秋の年2回開花するという珍しい「十月桜」を中心に10種類
200本の桜が緑道を彩る

見沼代親水公園
古千谷本町4-8～舍人4-5

緑道散歩が楽しい細長い公園。子どもたちが遊べるじゃぶじゃぶ池もあり、夏場は小さい子とお母さんたちの憩いの場

舍人いきいき公園(鬼公園)
舍人6-3-1

インパクト大の鬼の滑り台がある
公園。いつでも子どもに大人気

舍人緑道公園
舍人6～入谷9

毛長川沿いの緑の散歩道。春には
1.2kmの花のトンネルが見事な桜の名所



いこうファーム／伊興 2-17-8 ☎0120-975-257
祖父の代からの土地を譲り受けた新しい「貸農園」に挑戦する山崎有康さん

この地域には、新しい「農」の形を提案する農園がある。「いこうファーム」の山崎有康さんが、その人。「農でつながる快適な暮らしを提供したい」という想いから、祖父より引き継いだアパートを「ワカミヤハイツ」という農園付き住宅に改装。20代から40代の居住者がそれぞれの農地を耕し、共に暮らす。また、ユリやフリージアを作る花農家だった自宅の農地を区切り、「コミュニティファーム」として貸農園も営んでいる。新しい「農」の形を見るなら「□□」。

水と緑

古墳時代から人が住み、新しい価値を産みだす「麺」処で舌つづみ。

農まち

ニューススタイル「貸農園」

もう一軒、舎人駅のほど近くにあるのが「ファーム・ヨコタ」。ここは知る人ぞ知るヘルシーで美味しいランチの店だ。店を切り盛りするのは「かやばあちゃん」と呼ばれる横田かやさん。使用する野菜は息子さんが畑で作る旬の素材だ。御年80を過ぎてもいきいきと働くかやさんはあちゃんと、みんなが元気を分けてもらっている。古くからの園芸農家がカフェを始めることになつたのも時代の流れ。新鮮な食材を産みだす土地と新しいアイデアがつまつたこの地域。今、一番ホットな農業エリアである。

かやはあらやん(左)
お嫁さんのまゆみさん(右)



3

ファーム・ヨコタ／舎人 1-11-20 ☎03-3897-9553
月～水・金～日(第1・第3水曜日を除く)10:00～17:00
晴れた日には外で美味しいランチを食べることもできる



4

息子さんの農園でその日に
とれた新鮮野菜を作るランチ



5

大熊農園直売所／舎人5-17
月～土15:30～18:00
その日に採った新鮮野菜を格安の値段で販売している。
農園の八代目・大熊久三郎さん(右)と息子の貴司さん(左)

竹の塚は新し物好き？

「この辺りはもともと宿場町でしょ。みんな新し物好きなんだよね」と大熊農園の八代目・大熊久三郎さん。今は小松菜や枝豆などの青物で有名な足立の農業だが、その歴史は深い。開拓前は沼地だったため、ハスやクワイが中心だった。その後、青物野菜や米作り用に地盤改良を重ねてきたという。戦後、西洋の野菜が日本に入ってきたときにも、ブロッコリー やサラダ菜の栽培が都内できち早く広がった先進的な地域でもある。

戦後、米を作る農家が多くなったころ、都内で初めて機械による田植えを導入したのは舎人ともいわれている。当時、耕運機はあつたが、まだ「田植えを機械で」という発想はなく、この地域での試作が成功したことで、イセキ農機の「さなえ」が全国にその名を轟かしたという話もある(大熊さん談)。その後、米作に代わり野菜作りがはじまる。足立の「農」は常に時代に敏感に反応してきた。

足立の新鮮野菜を食べよう

ここ竹の塚エリアは地元農園の直売所が多い地域だ。都内でありながら採れたての新鮮野菜が買えるのはもちろんうれしい。そのうえ丹精込めた生産者の顔が見える販売方法は、消費者にとって安心だ。竹の塚散歩のお土産にはぜひ、採れたての野菜を持ち帰りたい。

古の文化財から、近代の遺産、そして
今にぎわい。それらが、人々の暮らし
と調和し、溶け込んでいるまち。竹の塚
エリアは、「タイムトリップ」と「今」が樂
しめるまちである。

昭和の家は、かつて金属加工業経営者
の自宅であった。今では昭和の風情
が残るカフェとして人気のスポットで
ある。

土地を求めて移転してきたことででき
あがった。寺とともに移ってきた、安藤
廣重の墓や記念碑、歌舞伎で有名な花川
戸助六の塚、怪談牡丹灯籠の碑など、多
くの文化財が点在し、静かで安らかな空
間を楽しむことができる。

「農」から「住」へ

昭和に入るところのエリアは、東京の
食を支える米や野菜を生産する農業
地帯となる。江戸時代から整備されて
きた見沼代用水を中心とした灌漑施
設がこの「農」を支える大きな役割を
果たした。

また周辺には、これらの水を利用して
染物業などの工場も増えていく。
竹の塚エリアが劇的に変化するのは、
昭和30年代以降。鉄道会社がおこなつ
た宅地開発を契機に「住」のまちへと変
わってきた。こうして、現在の姿に近い
まちができるあがつたのである。